科目名	統計学	開講時期	2年次後期	講義担当者	亀井　圭史
		単位数	1		
		時間数	15時間（8回）	実務経験	無

事前学習内容

授業ではMicrosoft Excelを用いて、統計をツールとして使う方法を学びます。このため、Excelの基本的な使用方法は完全に理解しているものとして講義を進めますので確実にExcelを修得してください。講義中にExcelの復習は行いません。予習のポイントは教科書中の数式を読むのではなく、各単元ごとの意味（たとえばt検定とは何か）を理解してください。復習では理科学年表等のデータを用いて未知の統計データについて統計解析を行ってください。

科目のねらい	授業目標
さまざまなデータの分析を行うための基礎となる 統計学の知識や統計学的な考え方を習得する。 また、データをパソコンで統計処理する技法を修得する。	1. 統計学の基本的知識を理解する。 2. データを統計処理する技法を理解する。 3. 統計データのまとめ方や表・グラフによる図示の方法を習得する。

DPとの関連	2年生後期での講義です。1年次の情報科学での知識と合わせ、グラフ作成やデータ分析を学びます。ディプロマ・ポリシー(DP)の考え抜く力（シンキング）、探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に置き講義します。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	Excelと統計 1）Excelと統計解析　2）度数分布表 3）度数多角形　4）グラフの描き方	講義・演習	・「情報科学」と連動して教授する ・バイタルサインをはじめとする多くの自然現象は規則性を有している場合が多く、その規則は多数のデータを統計的に解析し、予測（推定）やデータの質の検証を行うことが可能であること等も含めて教授する ・科学的な論理と思考の基本を理解できるためにも、日頃から図や表に示された数字をよく読むように促し、統計学におけるものの考え方を理解できるように教授する ・講義・演習はパソコン室で行い、ツールとしての統計学とするため、MicrosoftExelに組み込まれている統計解析関数を用い、さまざまな統計に関する事柄を説明する。 ・例題を基に演習を加えていく
2	統計の基本 1）平均値、分散、標準偏差　2）変数の標準化 3）散布図　4）共分散と相関係数	講義・演習	
3	確率分析 1）確率と確率分布　2）正規分布 3）中心極限定理	講義・演習	
4	推定 1）推定の考え方 2）母平均の推定 3）母比率の推定	講義・演習	
5			
6	検定 1）検定の考え方 2）母平均の検定 3）母比率の検定	講義・演習	
7			
8	まとめ	講義	
受講上の注意		**参考文献**	マンガでわかる統計学 素朴な疑問からゆる～く解説 大上丈彦・メダカカレッジ（ソフトバンククリエイティブ）
使用するテキスト	初歩からしっかり学ぶ 実習 統計入門 ～Excel演習でぐんぐん力がつく　涌井良幸・涌井貞美（技術評論社）		
評価方法	試験100点　その他　講義・演習参加状況、課題など		

科目名	疾病と治療Ⅰ （脳・神経／運動器）	開講時期	2年次前期	講義担当者	非常勤講師（脳神経） 非常勤講師（運動器）
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：医師　実務経験者

事前学習内容

事前学習は特に指示はありませんが、毎回の講義内容の復習を重ねることを大事にします。

科目のねらい

人体の構造と機能をふまえ、観察される症候、脳・神経系の領域でよく用いられる検査と治療について学び、疾病のしくみと看護を結びつけ、アセスメントを統合し、実際の関わりかたに関する基本的知識を習得し、臨床実習や看護師国家試験出題頻度の高い疾患に関する内容を中心に理解できることを目的とする。また、運動器については、意志で動かせる器官であり、完治する疾患もあれば障害が残る、ひいては死に至る疾患もあることから思うように動けないとなった対象を看護することや超高齢多死社会で重要視されているフレイルやサルコペニアについても理解する。

授業目標

（脳神経）
1. 脳・神経系において正常機能が破綻して生じるさまざまな症状の種類・特徴とその病態生理が理解できる。
2. 脳・神経系の疾病の診断方法、検査法、治療法について理解する。

（運動器）
1. 運動器系において正常機能が破綻して生じるさまざまな症状の種類・特徴とその病態生理が理解できる。
2. 運動器系の疾病の診断方法、検査法、治療法について理解する。

DPとの関連

この講義は2年次前期の受講時期となるため、1年次に学習したことをふまえ、基礎分野、専門基礎分野での既習内容からに理解を捉え、医療従事者を目指すための関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）と結びつけて構成しています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 脳・神経系の構造と機能 2. 脳・神経の異常でみられる症候 3. 脳・神経疾患の検査	講義	
2			
3	4. 脳・神経疾患の主な治療	講義	
4	5. 脳血管障害 1）脳梗塞　2）脳出血 3）くも膜下出血　4）脳動静脈奇形 5）もやもや病　6）脳腫瘍 7）頭部外傷　・頭蓋骨骨折 8）水頭症　9）感染症疾患 10）脊椎・脊髄疾患・変形性脊椎症 11）神経変性疾患・不随意運動症 12）認知症 13）末梢神経疾患 14）脱髄性疾患　15）筋疾患	講義	
5			
6			
7			
8			
9	1. 運動器の構造と機能 2. 運動器の異常でみられる症候	講義	
10	3. 整形外科で行われる検査	講義	
11	5. 運動器の疾患 1）骨折　2）脱臼　3）靭帯損傷 4）その他の外傷　5）骨粗鬆症 6）関節炎・腱鞘炎　7）変形性関節症 8）大腿骨頭壊死　9）脊椎変性疾患 10）骨・軟部腫瘍 11）コンパートメント症候群 12）筋疾患　13）末梢神経麻痺 6. まとめ	講義	
12			
13			
14			
15			

受講上の注意	1年次に既習となる解剖学総論・各論、生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学、病理学などの知識に理解のもとに受講して下さい。	**参考文献**	
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　疾患と看護⑤脳・神経　疾患と看護⑦運動器　メディカ出版		
評価方法	試験　試験配分：脳・神経系（50%）運動器（50%）		

科目名	疾病と治療Ⅱ （呼吸器／循環器）	開講時期	2年次前期	講義担当者	小倉医療センター医師 （呼吸器） 加来秀隆（循環器）
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：医師　実務経験者

事前学習内容

事前学習は特に指示はありませんが、毎回の講義内容の復習を重ねることを大事にします。

科目のねらい

人体の構造と機能をふまえ、観察される症候、呼吸器・循環器の領域でよく用いられる検査と治療について学び、疾病のしくみと看護の関連を考えられるためにアセスメントを統合し、実際の関わりかたに関する基本的知識を習得し、臨床実習や看護師国家試験で頻出される問題の疾患や治療の理解ができることを目的とする。

授業目標

（呼吸器）
1. 呼吸器系において正常機能が破綻して生じるさまざまな症状の種類・特徴とその病態生理が理解できる。
2. 呼吸器系の疾病の診断方法、検査法、治療法について理解する。

（循環器）
1. 循環器系において正常機能が破綻して生じるさまざまな症状の種類・特徴とその病態生理が理解できる。
2. 循環器系の疾病の診断方法、検査法、治療法について理解する。

DPとの関連

この講義は2年次前期の受講となるため、1年次に学習したことをふまえ、基礎分野、専門基礎分野での既習内容からに理解を捉え、医療従事者を目指すための関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）チームで働く力（協働）、探求する力（成長）と結びつけて構成しています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 呼吸器の構造と機能 2. 呼吸器の異常でみられる症候 3. 呼吸器疾患の検査	講義	
2	4. 呼吸器疾患の主な治療	講義	
3	5. 呼吸器の疾患 1）呼吸不全 2）酸素化障害 3）換気障害 4）肺循環障害 5）呼吸器感染症 6）その他の肺疾患	講義	
4			
5			
6			
7			
8	1. 循環器の構造と機能 2. 循環器機能の異常とそこから引き起こされる症候	講義	
9	3. 循環器系の検査	講義	
10	4. 循環器疾患の主な治療と処置	講義	
11	5. 循環器の疾患 1）心不全 2）血圧異常 3）アテローム性動脈硬化症 4）冠血流障害 5）刺激伝導系の障害 6)弁機能の異常 7）先天性の心臓の形態異常 8）心筋障害 9）心膜炎 10）血管の器質異常 11）循環器以外の原疾患による循環器系の障害および心不全	講義	
12			
13			
14			
15			

受講上の注意	1年次に既習となる解剖学総論・各論、生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学、病理学などの知識に理解のもとに受講してください。	**参考文献**	講師による配布資料などは講義時に紹介する。
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　疾患と看護①呼吸器　疾患と看護②循環器　メディカ出版		
評価方法	試験　試験配分：呼吸器（50%）循環器（50%）		

科目名	疾病と治療Ⅲ （消化器／内分泌・代謝）	開講時期	2年次前期	講義担当者	小倉医療センター医師 （消化器／内分泌・代謝）
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：医師　実務経験者

事前学習内容

事前学習は特に指示はありませんが、毎回の講義内容の復習を重ねることを大事にします。

科目のねらい

人体の構造と機能をふまえ、観察される症候、消化器、内分泌・代謝系の領域でよく用いられる検査と治療について学び、疾病のしくみと看護を結びつけ、アセスメントを統合し、実際の関わりかたに関する基本的知識を習得する。また臨床実習や看護師国家試験で頻出される問題の内容を中心に理解できることを目的とする。

授業目標

（消化器）
1. 消化器において正常機能が破綻して生じるさまざまな症状の種類・特徴とその病態生理が理解できる。
2. 消化器系の疾病の診断方法、検査法、治療法について理解する。

（内分泌・代謝）
1. 内分泌・代謝系において正常機能が破綻して生じるさまざまな症状の種類・特徴とその病態生理が理解できる。
2. 内分泌・代謝系の疾病の診断方法、検査法、治療法について理解する。

DPとの関連

この講義は2年次前期の受講時期となるため、1年次に学習したことをふまえ、基礎分野、専門基礎分野での既習内容からに理解を捉え、医療従事者を目指すための関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）と結びつけて構成しています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 消化器の構造と機能 2. 消化器の異常でみられる症候	講義	
2	3. 消化器の検査 4. 消化器の主な治療と処置	講義	
3	5. 消化器の疾患 1）食道の疾患 2）胃・十二指腸の疾患 3）小腸・大腸・肛門疾患 4）肛門疾患 5）肝臓の疾患 6）胆道系の疾患 7）膵臓の疾患 8）腹膜、腹壁、横隔膜の疾患	講義	
4			
5			
6			
7			
8			
9	1. 内分泌・代謝器官の構造と機能	講義	
10	2. 内分泌器官の異常でみられる症候 3. 内分泌・代謝内科で行われる検査	講義	
11	4. 内分泌・代謝疾患 1）視床下部・下垂体疾患 2）甲状腺疾患 3）副甲状腺疾患 4）副腎皮質・髄質疾患 5）その他の内分泌疾患 6）糖代謝異常（糖尿病） 7）その他の代謝、栄養疾患 8）体温調節機能障害 5. まとめ	講義	
12			
13			
14			
15			

受講上の注意	1年次に既習となる解剖学総論・各論、生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学、病理学などの知識に理解のもとに受講してください。	**参考文献**	
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　疾患と看護③　消化器　メディカ出版 ナーシング・グラフィカ　疾患と看護⑧腎／泌尿器／内分泌・代謝　メディカ出版		
評価方法	試験　試験配分：消化器（50%）　内分泌・代謝（50%）		

科目名	疾病と治療Ⅳ （血液・造血／アレルギー・膠原病・感染症）	開講時期	2年次前期	講義担当者	小倉医療センター医師(血液・造血器) 尾上泰弘（アレルギー・膠原病・感染症）
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：医師　実務経験者

事前学習内容

事前学習は特に指示はありませんが、毎回の講義内容の復習を重ねることを大事にします。

科目のねらい

人体の構造と機能をふまえ、観察される症候、血液・造血器系、免疫機能の領域、感染症でよく用いられる検査と治療について学び、疾病のしくみと看護を結びつけ、アセスメントを統合し、実際の関わりかたに関する基本的知識を習得する。臨床実習や看護師国家試験で頻出される問題内容の理解ができることを目的とした。また、アレルギーや感染症については、起こりやすい疾患に伴う症状等学生の経験も想起させて理解できるようにする。

授業目標

（血液・造血器）
1. 血液・造血器において正常機能が破綻して生じるさまざまな症状の種類・特徴とその病態生理が理解できる。
2. 血液・造血器の疾病の診断方法、検査法、治療法について理解する。

（アレルギー・膠原病）
1. 免疫機能障害において正常機能が破綻して生じるさまざまな症状の種類・特徴とその病態生理が理解できる。
2. 免疫機能障害でおこる疾病の診断方法、検査法、治療法について理解する。

（感染症）
1. 感染症で正常機能が破綻して生じるさまざまな症状の種類・特徴とその病態生理が理解できる。
2. 感染症でみられる疾病の診断方法、検査法、治療法について理解する。

DPとの関連

この講義は2年次前期の受講時期となるため、1年次に学習したことをふまえ、基礎分野、専門基礎分野での既習内容からに理解を捉え、医療従事者を目指すための関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）と結びつけて構成しています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 血液の組成と機能 2. 血液・造血器の異常でみられる症候	講義	
2	2. 血液・造血器の異常で行われる検査 3. 血液・造血器疾患の主な治療		
3	4. 血液・造血器の疾患 1）貧血 2）出血傾向 3）血球異常 4）リンパ腫	講義	
4			
5			
6			
7			
8	1. 免疫にかかわる細胞・器官とそれらの機能 2. 免疫機能の異常でみられる症候 3. 膠原病に関連した症候 4. 免疫不全に関連した症候	講義	
9	5. 免疫機能の異常で行われる検査 6. 免疫機能の異常の治療と処置 7. 膠原病に関連した治療と処置	講義	
10	1. アレルギー・自己免疫（膠原病）疾患 1）アレルギー 2）自己免疫疾患（膠原病）	講義	
11		講義	
12		講義	
13	1. 感染症でみられる症候 2. 各臓器の特徴的な症候 3. 感染症で行われる検査 4. 感染症で行われる治療と処置	講義	
14	5. 感染症 1）ウイルス感染症 2）細菌感染症 3）真菌感染症・寄生虫症・原虫感染症　まとめ	講義	
15			

受講上の注意	1年次に既習となる解剖学総論・各論、生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学、病理学などの知識に理解のもとに受講してください。	参考文献	講師による配布資料など
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　疾患と看護④血液／アレルギー／膠原病／感染症　メディカ出版		
評価方法	試験　試験配分：血液・造血器（50%）アレルギー・膠原病・感染症（50%）		

科目名	疾病と治療Ⅴ （腎／泌尿器／女性生殖器）	開講時期	2年次前期	講義担当者	永田雅治（腎）・梅津大輔（泌尿器） 小倉医療センター医師（女性生殖器）
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：医師　実務経験者

事前学習内容

事前学習は特に指示はありませんが、毎回の講義内容の復習を重ねることを大事にします。

科目のねらい

人体の構造と機能をふまえ、観察される症候、腎・泌尿器、女性生殖器の領域で用いられる検査と治療について学び、疾病のしくみと看護の関連を考えられるためにアセスメントを統合し、実際の関わりかたに関する基本的知識を習得しする。臨床実習や看護師国家試験で頻出される問題へも活用できるような内容を中心に理解できることを目的とする。

授業目標

（腎・泌尿器）
1．腎・泌尿器において正常機能が破綻して生じるさまざまな症状の種類・特徴とその病態生理が理解できる。
2．腎・泌尿器の疾病の診断方法、検査法、治療法について理解する。

（女性生殖器）
1．女性生殖器において正常機能が破綻して生じるさまざまな症状の種類・特徴とその病態生理が理解できる。
2．女性生殖器の疾病の診断方法、検査法、治療法について理解する。

DPとの関連

この講義は2年次前期の受講時期となるため、1年次に学習したことをふまえ、基礎分野、専門基礎分野での既習内容からに理解を捉え、医療従事者を目指すための関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）と結びつけて構成しています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1．腎臓の構造と機能 2．腎臓の異常でみられる症候 3．腎臓にともなう検査 4．腎疾患の主な治療	講義	
2 3 4	5．腎臓の疾患 1）腎不全 2）原発性糸球体疾患 3）高血圧および腎血流障害 4）尿細管・間質性疾患 5）全身性疾患に伴う腎障害 6）嚢胞性腎疾患　多発性腎嚢胞	講義	
5	1．泌尿器の構造と機能 2．泌尿器の異常で見られる症候 3．泌尿器で行われる検査	講義	
6 7 8	4．泌尿器科で行われる治療、処置 5．泌尿器の疾患 1）尿路・男性生殖器の感染症 2）下部尿路機能障害 3）尿路・男性生殖器の腫瘍性疾患 4）泌尿器の先天異常　小児泌尿器疾患 5）男性生殖器疾患 6）その他の尿路障害	講義	
9	1．女性生殖器の構造と機能 2．女性生殖器の異常でみられる症候 3．婦人科・乳腺科で行われる検査	講義	
10	4．婦人科の主な治療、処置	講義	
11 12 13 14 15	5．女性生殖器の疾患 1）月経に関する疾患 2）性分化疾患・性器形態異常 3）子宮の疾患 4）卵巣・卵管の疾患 5）性器の炎症・性感染症 6）不妊症・不育症 7）更年期、老年期の疾患 6．セクシャリテイに関連する健康課題	講義	

受講上の注意	1年次に既習となる解剖学総論・各論、生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学、病理学などの知識に理解のもとに受講してください。	**参考文献**	講師による配布資料など
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　疾患と看護⑧腎・泌尿器　⑨女性生殖器　メディカ出版		
評価方法	試験　試験配分：女性生殖器（50%）　腎（25%）　泌尿器（25%）		

科目名	疾病と治療Ⅵ （皮膚／眼／ 耳鼻咽喉／歯・口腔）	開講時期	2年次前期	講義担当者	小倉医療センター医師 （眼科・皮膚科） 田中康隆（耳鼻咽喉） 村岡宏佑（歯・口腔）
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：医師　実務経験者

事前学習内容

事前学習は特に指示はありませんが、毎回の講義内容の復習を重ねることを大事にします。

科目のねらい

人体の構造と機能をふまえ、観察される症候、感覚器の領域でよく用いられる検査と治療について学び、疾病のしくみとアセスメントを統合できるように、実際の関わりかたに関する基本的知識を習得し、看護師国家試験に頻出される内容の学習に活用できるように理解できることを目的とする。

授業目標

（皮膚）
1．感覚器系（皮膚）において正常機能が破綻して生じるさまざまな症状の種類・特徴とその病態生理が理解できる。
2．皮膚の疾病の診断方法、検査法、治療法について理解する。
（眼科）
1．感覚器系（眼科）において正常機能が破綻して生じるさまざまな症状の種類・特徴とその病態生理が理解できる。
2．眼科の疾病の診断方法、検査法、治療法について理解する。
（耳鼻咽喉）
1．感覚器系（耳鼻咽喉）において正常機能が破綻して生じるさまざまな 症状 の種類・特徴とその病態生理が理解できる。
2．耳鼻咽喉に関する疾病の診断方法、検査法、治療法について理解する。
（歯科・口腔）
1．感覚器系（歯・口腔）において正常機能が破綻して生じるさまざまな症状の種類・特徴とその病態生理が理解できる。
2．歯・口腔の疾病の診断方法、検査法、治療法について理解する。

DPとの関連

この講義は2年次前期の受講時期となるため、1年次に学習したことをふまえ、基礎分野、専門基礎分野での既習内容からに理解を捉え、医療従事者を目指すための関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）と結びつけて構成しています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1．皮膚の構造と機能 2．皮膚の異常でみられる症候 3．皮膚科で行われる検査	講義	
2	4．皮膚疾患の主な治療、処置	講義	
3	5．皮膚の疾患	講義	
4			
5	1．眼の構造と機能 2．眼の異常でみられる症候 3．眼科で行われる検査 4．眼疾患の主な治療と処置	講義	
6	5．眼疾患の主な治療・手術	講義	
7	6．眼の疾患	講義	
8	1．耳鼻咽喉の構造と機能 2．耳鼻咽喉の異常でみられる症候	講義	
9	3．耳鼻科で行われる検査と治療	講義	
10	4．耳鼻咽喉疾患の主な治療、処置 5．耳鼻咽喉の疾患	講義	
11			
12	1．歯・口腔の構造と機能 2．歯・口腔の異常でみられる症候	講義	
13	3．歯科で行われる検査	講義	
14	4．歯・口腔疾患の主な治療、処置 5．歯・口腔の疾患		
15			

受講上の注意	講義内容は、医師による専門的な知識の教授です。1年次に既習となる解剖学総論・各論、生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学、病理学などの知識に理解のもとに受講してください。	参考文献	講師による配布資料など
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　疾患と看護⑥眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚　メディカ出版		
評価方法	試験　試験配分：皮膚（25%）眼（25%）耳鼻咽喉（25%）歯・口腔（25%）		

科目名	社会福祉	開講時期	2年次前期	講義担当者	小倉医療センター 医療ソーシャルワーカー
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	医療ソーシャルワーカー

事前学習内容

授業前にテキストを熟読し受講してください。

科目のねらい

社会の情勢が日々大きく変化しようとしている中で、看護師は社会の動きを幅広くとらえ、国や地方、法や政策、社会福祉や社会保障が何を行おうとしているのかについて学ぶ必要性が高い。看護の目的には人々が健康で生活をより良いものと向上を目指すことにあるため、疾病や精神の成り立ちやどのように生活をするかということを常に念頭に置き、社会福祉の概念を歴史的変遷から学び、福祉サービスを必要とする人々の生活困難と社会福祉の関係、社会福祉のあり方を理解することが期待される。

授業目標

1. 社会保障や社会福祉の目的やしくみ、人々の生活とのかかわりが理解できる。
2. わが国における社会保障制度の歴史から、社会保障の方向性について理解できる。
3. 高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉の実態や課題について知ることができる。
4. 医療・看護と社会福祉の関連を学び、多職種との連携や協働から看護師の役割が理解できる。

DPとの関連

人は生まれてから死を迎えるまでの間に様々な困難に直面する。そうした困難に対し生活の安定化を図るために社会保障制度がある。国民の最低限生活を保障するということは、人権の尊重や生活者として理解を深めていく必要がある。本授業では、その制度を理解し、看護者として病気ではなく病人をみるために必要な知識となり看護展開に活かす能力が養われる授業構成としています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 現在社会と社会保障・社会福祉	講義	・わが国の経済の歴史と関連づけて理解させる ＊憲法第25条・第13条
2	2. 暮らしと社会保障・社会福祉	講義	・社会保障と社会福祉を体系的に学び、具体的な補償内容について理解させる
3	3. 社会福祉のしくみと社会資源①	講義	
4	4. 社会福祉のしくみと社会資源②	講義	・「厚生労働白書」などの統計を使用し時代変化をおさえる
5	5. 地域福祉の推進	講義	・社会福祉制度は障碍者や要介護高齢者など社会的な援護を要するものが自立した生活を送れるように様々な支援を行うことであることを理解させる
6	6. 対象別にみた社会福祉①（子ども・家庭の福祉）	講義	
7	7. 対象別にみた社会福祉②（障害児の福祉）	講義	・児童家庭福祉についても「母性及び小児看護学」での学びも想起させる
8	8. 対象別にみた社会福祉③（障碍者の福祉）	講義	
9	9. 対象別にみた社会福祉④（高齢者の福祉）	講義	・多職種連携や協働の中から専門職としての関わりや対象が主体である関わりを学ぶ
10	10. 公的扶助制度①（生活保護）	講義	・生活保護制度を中心に、現代社会における貧困や低所得問題に対応する公的扶助制度について理解する ＊憲法第25条
11	11. 公的扶助制度②（医療・年金・雇用・労災）	講義	
12	12. 公的扶助制度③（介護保険）	講義	
13	13. 地域で生活するということ①（障害者）	講義	・特に医療保険・介護保険・公的扶助について理解させる
14	14. 地域で生活するということ②（高齢者）	講義	・介護保険については「老年看護学」「在宅看護論」と連動させて学ばせる
15	15. 地域で生活するということ③（ターミナル）	講義	

受講上の注意	受講後は、ノートなどを用いてまとめていきましょう	**参考文献**	系統看護学講座 専門基礎分野　社会福祉 （医学書院）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障		
評価方法	終講試験、参加状況、課題レポートなど総合的に評価		

科目名	関係法規	開講時期	2年次後期	講義担当者	小野　憲昭
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	無

事前学習内容

テキストに沿って、法の概念、医療法、保健衛生法について講義します。必要に応じて、受講者に発言を求め、積極的な参加を促します。講義を通じて、保健医療福祉に関する法制度の沿革、内容、役割を知り、従事者としてどうあるべきか、職種間の関係はどうあるべきかを考える機会を提供するとともに、生活者の健康を守るために必要な知識を身につけていただきたいと思っています。

科目のねらい

法の概念、医療法、保健衛生法について講義します。法律の世界は、最初は馴染みにくい世界です。聞きなれない用語や言い回しが多く出てきますが、慣れるしかありません。日常生活でも、職業生活でも不可欠な法を知り、将来役立てるように保健医療福祉に関する基本概念、関係制度、関係する職種の役割を学び、生活者の健康を守るための基本的な法規と関係職種の役割・機能について理解することを目的とする。

授業目標

1. 保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令が理解できる。
2. 保健師助産師看護師法を学び、専門職業人としての責任と義務が理解できる。
3. 医療に関係する他職種の職務内容について理解できる。
4. 生活者の生活環境の維持するための法律の種類・目的と概要が理解できる。
5. 生活者の生活を守る社会保障制度について基本概念としくみについて理解できる。

DPとの関連

関係法規は2年後期に開講され30時間15コマの授業です。生活者を守るための基本的な法規を学ぶことや関係職種と看護との関わりを通し自己の健康管理能力を獲得することを目指します。
ディプロマ・ポリシー(DP)の関係を築く力(倫理)、前に踏み出す力(アクション)、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）に関連づけられています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	医療スタッフに関する法の枠組み 法の概念	講義	・法律や法令を学ぶ意義を理解させる ・看護に携わる者が国民の健康をまもり、与えられた責務を正しく遂行するためには看護関係法令の理解は欠かせず、看護に携わる者にとって最も重要である補助看法を理解させる ＊特に医療法及び保助看法について学ばせる ・ライフサイクルやライフステージに応じて、どのような保健法規が関係するのか整理させる ・再策に関わる法については概要を理解させ、詳細については各専門分野で学ぶ ・労働法については、特に看護師の労働と関係法規について考えさせる ・国民の健康を守るため、特定の感染の発生・蔓延を予防するための法を理解させる ・医療事故で多い薬物の理解や医療器具の取り扱いについて理解させる ・公衆衛生や社会福祉と連動して学ばせる
2	保健師助産師看護師法 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義・課題	
3			
4	医療専門職に関わる法 福祉専門職に関わる法 栄養士法	講義	
5			
6			
7	物に関する法律 場所に関する法律	講義	
8	お金とサービスに関する法律	講義	
9	特別な配慮を必要とする人に関する法律	講義	
10	医療政策に関する法律	講義	
11	医療政策、福祉政策、災害政策、情報政策、食品安全政策に関する法律	講義	
12	人口政策に関する法律 社会的弱者政策に関する法律	講義	
13	労働政策に関する法律 女性政策に関する法律 環境政策に関する法律	講義	
14	インフォームドコンセント 医療過誤・看護過誤 法と生命倫理	講義・GW	
15			

受講上の注意	法律の世界は、最初は少し馴染みにくい世界です。 聞きなれない用語や言い回しがたくさん出てきますが、慣れるしかないようです。理解に努めてください。講義を通じて、日常生活にも職業生活にも不可欠な法を知り、将来、法を役立て、安心して生活を営む基盤を作っていただきたいと思っています。	**参考文献**	系統看護学講座　専門基礎分野　看護関係法令（医学書院）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　健康支援と社会保障④　看護をめぐる法と制度　メディカ出版		
評価方法	試験100点 その他　参加状況、課題レポートなど総合的評価		

科目名	基礎看護技術Ⅴ	開講時期	2年次前期	講義担当者	野村美由紀
		単位数	1		
		時間数	15時間（8回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

基礎分野　人間と生活・社会の理解、専門基礎分野　人体の構造と機能、看護学概論や、基礎看護技術のコミュニケーション能力も必要です。復習しておきましょう。

科目のねらい

健康のレベルとニーズおよびその看護の特徴および時期に合わせた学習支援の意義について理解できるようにする。対象の発達段階や健康のレベルとニーズにより、学習支援の効果的な方法の違いを理解できるようにする。さらに媒体を作成することで、より具体的な方法と個別性を理解できるようにする。

授業目標

1. 健康レベルとニーズにおよびその看護の特徴が理解できる。
2. 看護における学習支援の意義と効果的な方法を理解できる。

DPとの関連

看護の対象の発達段階や健康のレベル、ニーズを理解した上で、個々に合わせた学習支援を考えられるようにしなければなりません。媒体作成および発表会での実演時には説明力も必要になることが理解できると考えます。ディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、前に踏み出す力（アクション）、探究する力（成長）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	【健康と生活】健康のレベルとそのニーズ①	講義	
2	【健康と生活】健康のレベルとそのニーズ②	講義	
3	【健康と生活】健康のレベルとそのニーズ③	講義	
4	【学習支援】看護における教育的支援	講義	
5	【学習支援】対象者に合わせた支援方法と媒体の工夫①	講義・GW	
6	【学習支援】対象者に合わせた支援方法と媒体の工夫②	講義・GW	
7	【学習支援】対象者に合わせた支援方法と媒体の工夫③	講義・GW	
8	【学習支援】対象者に合わせた支援方法、発表会、まとめ	講義	

受講上の注意	媒体づくりに関しては、学習支援の意義・目的を理解した上で、対象に合っているかや倫理的配慮についても考えていきます。	参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ （医学書院）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　基礎看護学　③基礎看護技術　メディカ出版		
評価方法	試験、GW、発表、課題レポートなどを総合的に評価		

科目名	基礎看護技術Ⅵ	開講時期	2年次通年	講義担当者	高瀬知子・丸茂ひろみ 野村美由紀・中野真梨子
		単位数	2		
		時間数	60時間（30回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

基礎分野では人間生活・社会の理解の心理学・人間関係論、専門基礎分野では人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進は全て関連しています。特に解剖学・生理学は基本です。復習しておきましょう。

科目のねらい

診療における看護師の役割を理解し、治療・検査・処置に必要な基本的な知識・技術を習得する。治療・検査・処置は侵襲を伴うこと、事故防止対策を十分に理解する。また、患者役を体験することで、治療・検査・処置を受ける患者の心理を理解できるようにする。

授業目標

1. 診療に伴う看護の基本技術を習得できる。
2. 診療の各場面における対象および家族の心理が理解できる。

DPとの関連

診療の補助技術は、より高度な技術が必要となり、卒業時の到達レベルは「モデル人形で指導の下でできる」また実習では「見学できる」という項目も多い。基礎看護技術は2年次までの履修であり、基礎看護技術Ⅵは基礎看護技術の集大成でもあると考えます。ディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、前に踏み出す力（アクション）、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	診療に伴う看護技術	講義	
2	【感染予防技術】滅菌法と無菌操作	講義	
3・4	【感染予防技術】滅菌物の取扱いの実際	演習	
5・6・7	【特殊技術】導尿	講義・演習	モデル使用
8	【検査と看護】検査時の看護師の役割	講義	
9・10	【検査と看護】生体検査①②	講義	
11・12	【検査と看護】心電図検査の実際	講義・演習	シミュレーターを活用
13・14	【検査と看護】検体検査	講義	
15・16・17	【検査と看護】静脈血採血	演習	モデル使用
18	【与薬の技術】与薬における看護師の役割と基礎知識	講義	
19	【与薬の技術】与薬法	講義	
20	【与薬の技術】注射のための援助技術	講義	
21・22・23	【与薬の技術】注射法①②　皮下注射・筋肉内注射・静脈内注射	演習	モデル使用
24・25	【特殊技術】経管栄養法	講義・演習	モデル使用
26・27	【特殊技術】浣腸・摘便	講義・演習	モデル使用
28	【皮膚・創傷管理技術】創傷の分類と治癒過程	講義	
29	【皮膚・創傷管理技術】洗浄・保護・包帯法	講義・演習	
30	【皮膚・創傷管理技術】褥瘡の予防と治癒の促進	講義	

受講上の注意	治療・検査・処置は侵襲を伴うことを講義で十分に理解し、演習では、個々が事故防止対策を行い安全に十分配慮する。特に静脈血採血と注射の演習では、針刺し事故に留意する。	**参考文献**	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ （医学書院）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　基礎看護学　③基礎看護技術Ⅱ　メディカ出版 看護技術プラクティス（学研）		
評価方法	試験、演習、課題レポートなどを総合的に評価		

科目名	基礎看護技術Ⅶ	開講時期	2年次前期	講義担当者	丸茂ひろみ
		単位数	1		
		時間数	15時間（8回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

フィジカルアセスメントに必要な消化器系・呼吸器系・循環器系臓器の構造と機能は、解剖学・生理学で学習しましたので、復習しておきましょう。同時期に履修している疾病の成り立ちと回復の促進の講義も関連しています。

科目のねらい

対象の身体をみて系統別にアセスメントできるために、問診・視診・触診・打診・聴診の基本技術を学習します。特に消化器系・呼吸器系・循環器系のアセスメントについて学び、アセスメントするために必要な情報収集ができるようにします。

授業目標

1. 解剖生理学の知識とフィジカルアセスメントの関係を理解し、系統別アセスメントの必要性が理解できる。
2. 系統別アセスメントの基本技術を習得できる。

DPとの関連

系統別アセスメントの中でも、腹部（消化器系）、肺（呼吸器系）、心臓・血管系のアセスメントの基本については、人体の構造と機能の解剖学・生理学を既習学習がしっかりできていれば、各ポイントとアセスメントの方法が理解できると考えます。ディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、前に踏み出す力（アクション）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	フィジカルアセスメントとは	講義	
2	腹部（消化器系）のフィジカルアセスメント	講義	
3	腹部（消化器系）のフィジカルアセスメントの実際	演習	シミュレーターの活用
4	心臓・血管系のフィジカルアセスメント	講義	
5	心臓・血管系のフィジカルアセスメントの実際	演習	シミュレーターの活用
6	肺（呼吸器系）のフィジカルアセスメント	講義	
7	肺（呼吸器系）のフィジカルアセスメントの実際	演習	シミュレーターの活用
8	まとめ	講義・GW	

受講上の注意	演習では、患者役を実施しながら問診・視診・触診・打診・聴診の基本技術について理解できるようにしていきます。またシミュレーターを活用することで、正常範囲と正常逸脱範囲についても理解していきます。	参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ （医学書院）

使用するテキスト

ナーシング・グラフィカ　基礎看護学　②ヘルスアセスメント　③基礎看護技術　メディカ出版
看護技術プラクティス（学研）　身体の地図帳

評価方法

試験、演習、課題レポートなどを総合的に評価

科目名	地域・在宅看護論概論Ⅱ （在宅療養を支えるしくみと看護の展開）	開講時期	2年次前期	講義担当者	田中　千草
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

基礎看護学既習内容を復習し授業に臨んでください。

科目のねらい

我が国の現状をふまえた地域・在宅看護の展望と今後の課題を学ぶ。また、在宅看護の対象となる在宅療養者とその家族の理解を中心に、対象が暮らす「地域」在宅での生活を維持するために必要な支援と医療ケアを必要とする在宅療養者への医療的支援である訪問看護について学ぶ。

授業目標

1. 日本の在宅看護の変遷とその社会的背景について説明できる。
2. 在宅看護の目的と基本理念、関連する概念について理解できる。
3. 在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を理解できる。
4. 現在の訪問看護制度の基本を理解できる。

DPとの関連

2年次通年で授業が行われる。在宅看護という「暮らしの場」で行う看護実践は、まずは個人のプライバシーに立ち入ることを念頭に、在宅看護の概念や看護倫理、人権の尊重、尊厳を守ることの重要さを講義とGWで学ぶ機会となります。ディプロマポリシー1. 関係を築く力、2. 考え抜く力、3. 前に踏み出す力、4. チームで働く力、5. 探究する力に関連する構成にしました。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 在宅看護の概念 在宅看護の背景・在宅看護の基盤 地域療養を支える在宅看護の役割・機能 在宅看護を展開するための基本理念 在宅看護における倫理	講義・GW	
2			
3	2. 在宅療養者と家族の支援 訪問看護の対象者と在宅療養の成立要件 在宅療養の場における家族のとらえ方 在宅療養者の家族への看護 在宅療養を支援する仕組み 在宅看護の提供方法・療養の場の移行	講義・GW	
4			
5			
6			
7			
8			
9	3. 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 人権の尊重と権利保障・自己決定権 個人情報の保護・看護師の守秘義務 成年後見・虐待 サービス提供者の権利擁護	講義・GW	
10			
11	4. 在宅療養を支える訪問看護 （1）在宅療養を支える訪問看護 訪問看護の特徴 在宅ケアを支える訪問看護ステーション （2）訪問看護サービスの展開 訪問看護における看護過程の特徴 訪問看護過程の実際 家庭訪問・初回訪問 訪問看護の記録	講義・DVD視聴・ロールプレイ	
12			
13			
14			
15	まとめ	講義	

受講上の注意	課題をしっかり行っていないと次の講義やグループワークへの取り組みに遅れますので注意してください。	**参考文献**	系統看護学講座専門分野 地域・在宅看護論（医学書院） 厚生労働白書（厚生労働省） 国民衛生の動向（厚生統計協会）
使用するテキスト	ナーシンググラフィカ地域療養を支えるケア　在宅看護論①（メディカ出版）		
評価方法	試験		

科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅰ（暮らしの場で行う看護・在宅看護技術）	開講時期	2年次通年	講義担当者	川平奈智子 木村　治世
		単位数	2		
		時間数	45時間（23回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

基礎看護学既習内容を復習し授業に臨んでください。

科目のねらい

対象である療養者と家族が在宅療養を選択した意味や思いを理解し、療養者・家族のセルフケア能力をアセスメントし、個別性が求められる看護援助方法を日常生活援助と医療的ケアを学ぶとともに、リスクマネジメントを含め療養者・家族の「暮らしの場」において継続可能な在宅看護技術や支援方法を学ぶ。

授業目標

1. 療養者と家族が在宅療養を選択した意味や思いが理解できる。
2. 在宅療養におけるリスクマネジメントが理解できる。
3. 療養者の疾患・病期、療養者と家族の生活背景をアセスメントし、暮らしの場における日常・医療的援助方法が理解できる。

DPとの関連

2年次後期に2単位45時間を設定し授業を行う。在宅療養者に見られる疾患と状態を事例に、在宅における医療的ケアを、既習、視覚教材を活用し、GWで思考・整理・課題の明確化を行い学びます。ディプロマポリシー2. 考え抜く力3. 前に踏み出す力、5. 探求する力に関連する構成にしました。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 在宅看護における安全と健康危機管理（リスクマネジメント） 1）在宅療養におけるリスクマネジメント 身体損傷の防止 感染防止 災害に対する準備と対応 2）在宅療養生活を支える基本的な技術 コミュニケーション技術 「生活行為」への支援と動作分析について	講義・DVD視聴	
2			
3			
4			
5	2. 在宅における援助技術 1）日常生活を支える看護技術と医療ケア ①食のアセスメントと援助 在宅経管栄養法（胃ろう・注腸） 在宅中心静脈栄養法：HPN ②排泄のアセスメントと援助 膀胱留置カテーテル ストーマ（人工肛門・人工膀胱）管理	講義・DVD視聴・演習・GW	
6			
7			
8			
9	③清潔のアセスメントと援助 移動のアセスメントと援助 良肢位保持と褥瘡予防とケア （中途脊髄損傷療養者の事例）	講義・DVD視聴・GW	
10			
11			
12	④呼吸のアセスメントと援助(外部講師) 在宅酸素療法（COPDの療養者） （老々介護・パーキンソン病療養者の事例 ADL低下、再発予防）	講義・DVD視聴・GW	
13			
14			
15	非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）(外部講師) (インスリン自己注射を開始する糖尿病療養者の事例)	講義・DVD視聴・GW	
16			
17			
18	在宅人工呼吸療法：HMVと排痰法(外部講師) （ALS療養者の事例・小児重症患児事例）	講義・DVD視聴・GW	
19			
20	2）医療ケアの援助技術 化学療法、放射線療法、外来がん治療支援	講義	
21			
22	まとめ①	講義	
23	まとめ②	講義	
受講上の注意		参考文献	系統看護学講座専門分野 地域・在宅看護論①（医学書院） 看護技術プラティクス（学研）
使用するテキスト	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア （メディカ出版） ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 地域療養を支える技術 （メディカ出版）		
評価方法	試験　木村先生(40%)　川平（60%）を総合し評価する		

科目名	成人看護学方法論Ⅰ	開講時期	2年次通年	講義担当者	野村美由紀・西誠一 中野真梨子
		単位数	2		
		時間数	60時間（30回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

1年次に学習した「解剖学・生理学・病理学」の科目を各自で復習し活用できるようにして下さい。

科目のねらい

成人期にある人の疾病・症状から臨床推理力を養うためには、クリティカルシンキング力、アセスメント力を向上させることが必要である。さらに疾病・症状が成人期の身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響を考えながら、看護師のセルフケア支援によって早期回復の促進、生活の再構築、セルフケア能力の向上を目指した、個別性を尊重した看護方法を学ぶ。

授業目標

1. 成人期にある人の健康上の問題を科学的根拠に基づいて判断し、問題解決思考を養い、看護を展開できる。
2. 健康障害をもつ成人期の人に対し、対象の個別性を尊重した臨床看護技術が理解できる。

DPとの関連

成人看護学方法論Ⅰは2年次、通年60時間30コマの授業です。健康問題を科学的根拠に基づき判断することや疾病のメカニズム・症状アセスメントを学び、病期や機能に応じた看護を通しディプロマ・ポリシー(DP)の関係を築く力(倫理)、前に踏み出す力(アクション)、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）に関連づけて授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	内部環境調節機能障害の症状・疾病アセスメント	講義	腎機能、内分泌機能、尿路機能障害
2	内部環境調節機能障害に対する看護	講義	
3	運動機能障害の症状・疾病アセスメント	講義	骨格系・脊椎・関節の運動機能障害
4	運動機能障害に対する看護	講義	
5	脳・神経機能障害の症状・疾病アセスメント	講義	感覚機能、脳・神経機能障害
6	脳・神経機能障害に対する看護	講義	
7		講義	
8	脳・神経機能障害に対する看護 （事例：脳梗塞）	講義・GW	事例を通し、アセスメントと看護アプローチを考える
9		講義・GW	
10		講義・GW	
11		講義・GW	
12	循環機能障害の症状・疾病アセスメント	講義	ポンプ機能、冠血流、刺激伝導系の障害、血管の障害
13	循環機能障害に対する看護	講義	
14			
15	代謝機能障害の症状・疾病アセスメント	講義	肝機能、糖代謝機能、その他代謝障害
16	代謝機能障害に対する看護	講義	
17			
18	消化・吸収機能障害の症状・疾病アセスメント	講義	胃・十二指腸、大腸、胆・膵、排便障害
19	消化・吸収機能障害に対する看護	講義	
20			
21	消化・吸収機能障害に対する看護 （事例：胃がん）	講義・GW	事例を通し、アセスメントと看護アプローチを考える
22		講義・GW	
23		講義・GW	
24		講義・GW	
25	造血・免疫機能障害の症状・疾患アセスメント	講義	血液・造血機能、免疫機能障害
26	造血・免疫機能障害に対する看護	講義	
27	呼吸機能障害の症状・疾病アセスメント	講義	換気・拡散障害、肺循環障害、酸塩基平衡の障害
28	呼吸機能障害に対する看護①	講義	
29	呼吸機能障害に対する看護技術①② 酸素、ネブライザー、気管内吸引、フィジカルアセスメント、救急時の応援要請、一次救命処置	演習	
30			
受講上の注意	科目のねらいを理解して受講してください	**参考文献**	

使用するテキスト

ナーシング・グラフィカ　健康の回復と看護①～⑦　メディカ出版
ナーシング・グラフィカEX　疾病と看護①～⑧　メディカ出版

評価方法

試験、GW、演習、課題レポートで総合的に評価

科目名	成人看護学方法論Ⅱ	開講時期	2年次後期	講義担当者	西　誠一 田原ゆう子
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

成人看護学方法論Ⅰで学習した機能障害がある成人を社会生活と結びつけられるように、事前学習をして下さい

科目のねらい

社会の基盤をなす一人ひとりの人間の生活・暮らしを理解するためには、個人の理解だけでなく、「家族」「集団」「組織」「地域」「グローバル」な視点で広く社会を捉える必要がある。さらに看護師は、社会の中での個人の健康や生活を理解して支援する役割が求められる。この単元では、社会を捉える視点と健康に生きる人への支援について学ぶ。

授業目標

1.現代社会の特徴からみた個人の生活を理解できる。
2.健康に生きるためのセルフマネジメント支援が理解できる。
3.グローバリゼーションの特徴と社会について理解できる。

DPとの関連

成人看護学方法論Ⅱは2年前期に開講され、30時間15コマの授業です。「家族」「集団」「地域」「グローバル」な視点で広く社会を捉えることを学び、健康に生きる人への支援を通し、ディプロマ・ポリシー(DP)の関係を築く力(倫理)、前に踏み出す力(アクション)、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）に関連づけて授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	社会の成り立ちと現代社の特徴 対象の生活の理解と保険・医療・看護（QOL）	講義	
2	社会的な健康と看護の役割	講義	
3	集団・組織の種類・特徴と組織での協働	講義	
4	難病と共に生きる人のセルフマネジメント支援（ALS）	講義	
5	難病と共に生きる人のセルフマネジメント支援（ALS）	GW	生きる権利について考える
6	生命倫理と看護	講義	
7	モノ・ヒト・カネ・情報を4つの資源としたグローバリゼーションの特徴	講義	
8	日本の国際協力を包括的に実施するJICAの理念と活動	講義	
9	JICA見学準備 JICA見学	準備・見学	JICAの活動の実際を知る
10		見学	
11		見学	
12	JICA見学での学びと今後の課題	GW	自己の課題を明確にする
13	慢性疾患と共に生きる人のセルフマネジメント支援（糖尿病）	講義	
14		GW	病みの軌跡を通して学ぶ
15	まとめ	講義	

受講上の注意	科目のねらいを理解して受講してください	**参考文献**	
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　健康支援と社会保障①　健康と社会生活		
評価方法	試験、GW、課題レポートなどで総合的に評価		

科目名	成人看護学方法論Ⅲ	開講時期	2年次後期	講義担当者	小倉医療センター認定看護師
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：小倉医療センター認定看護師・看護師実務経験者

事前学習内容

1年次に学習した臨床看護総論の科目を各自で復習し活用できるようにして下さい。

科目のねらい

医療者にとって患者の人生最後の貴重な時間を共有だけでなく、診断時など早期な緩和ケアの重要性や患者が自分らしく生きることや「死」を迎えること、自己実現を実感できることを支援する機会となる。このような支援に必要な医療者としての看護観や死生観、人生観を認識し、がん看護と緩和における看護師の役割を学ぶ。

授業目標

1.自分らしく生き抜くための意思決定の支援を理解できる。
2.対象の全人的苦痛を緩和するための看護が理解できる。
3.臨死期の看護を理解できる。

DPとの関連

成人看護学方法論Ⅲは2年後期に開講され、30時間15コマの授業です。苦痛の緩和、QOLの維持・向上を目指しながら、終末期における看護師の役割を通し、ディプロマ・ポリシー(DP)の関係を築く力(倫理)、前に踏み出す力(アクション)、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	緩和ケア概論	講義	
2	身体症状とその治療・看護（疼痛/消化器症状）	講義	症状を緩和して日常生活を支えるための看護実践がわかる
3	身体症状とその治療・看護（呼吸器症状・倦怠感）	講義	
4	精神症状とその治療・看護	講義	
5	社会的ケア	講義	
6	スピリチュアルケア	講義	
7	意思決定とコミュニケーション	講義	
8	在宅緩和ケア	講義	
9	臨死期のケア	演習	死亡確認と臨終後のケアを学び今後の課題がわかる
10		演習	
11		講義	
12	家族ケア	講義	
13	緩和ケアと生命倫理	講義	がん患者に限らず、対象者が多い非がん患者の緩和ケアの特徴を学ぶ
14	非がん疾患と緩和ケア	講義	
15	まとめ（プレテスト）	講義	

受講上の注意	科目のねらいを理解して受講してください	**参考文献**	
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　成人看護学⑥　緩和ケア他 各領域担当が指定するテキスト　資料など		
評価方法	試験、演習、課題レポートなどで総合的に評価		

科目名	老年看護学方法論Ⅰ	開講時期	2年次前期	講義担当者	幸田　鳴美
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

老年看護学概論で学んだこと、および1年次に臨地実習で体験したことを想起し、復習しておきましょう。

科目のねらい

高齢者の定義は幅広く、また個々の生活様式や価値観も多様なため、高齢者を取り巻く家族・生活環境・ヘルスケアシステムとの関連も視野に入れ、よりよい方向を見出すために有用な看護の実際を学ぶ。また、対象の障害された機能を理解し、その人らしく生活するために必要な看護について具体的に学ぶ。

授業目標

1. 健康レベルに応じた高齢者看護の基本について理解できる。
2. 高齢者の健康増進と生活機能を支える看護が理解できる。
3. 高齢者の生活の場や望む生活を支える看護について理解できる。

DPとの関連

この講義では、高齢者を看護するうえで必要な知識を習得し、実際の生活の場をイメージしながら高齢者看護の特徴が理解できるように教授します。高齢者の特性、住まいや地域における社会参加などを考え、高齢者を生活者として理解する視点を養います。そこで、本校のディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、探求する力（成長）、前に踏み出す力（アクション）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	高齢者看護の基本：高齢者看護の特性・諸理論	講義	
2	高齢者看護の基本：倫理・フィジカルアセスメント	講義	
3	高齢者看護の基本：高齢者によくみられる疾患	講義	
4	高齢者看護の基本：高齢者看護におけるアプローチ・リスクマネジメント	講義	
5	高齢者のヘルスプロモーション	講義	
6	生活を支える看護	講義	
7	生活を支える看護	講義	
8	高齢者の生活を支える看護：食生活	講義	
9	高齢者の生活を支える看護：食生活	講義	
10	高齢者の生活を支える看護：排泄	講義	
11	高齢者の生活を支える看護：清潔・衣生活	講義	
12	高齢者の生活を支える看護：活動と休息	講義	
13	高齢者の生活を支える看護：歩行・移動	講義	
14	高齢者の生活を支える看護：呼吸・循環機能	講義	
15	まとめ	講義	
受講上の注意	講義では、臨床をイメージしながらより具体的な看護実践につなげられるよう、予習・復習を含め、自己の学習を深めてください。	**参考文献**	系統看護学講座 専門分野Ⅱ　老年看護学 （医学書院）

使用するテキスト

ナーシング・グラフィカ　老年看護学　①高齢者の健康と障害　②高齢者看護の実践

国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

評価方法

終講試験　100点

科目名	老年看護学方法論Ⅱ	開講時期	2年次後期	講義担当者	幸田　鳴美
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

老年看護学を中心に、既習学習をまとめ整理しておきましょう。また身近な高齢者をとおして、看護師に求められる視点や介入方法について意識しておきましょう。

科目のねらい

高齢者によくみられる疾患・症状を理解し、尊厳や倫理的課題、自己決定を含めた高齢者看護の本質的な課題を学ぶ。また、治療を受ける高齢者に必要な看護実践、家族を含めた看護や予防・指導教育の必要性を学び、高齢者のもてる力をいかした看護を展開していく。

授業目標

1. 高齢者に特有な疾患や治療から看護の必要性や留意点が理解できる。
2. 治療を受ける高齢者の健康課題を抽出し、病態と症状、アセスメントの視点を理解する。
3. 高齢者の意思決定を含め退院後の生活を見据えた看護を展開する必要性と方法が理解できる。

DPとの関連

この講義では、高齢者の尊厳や倫理的課題、自己決定を含めた意思尊重への支援を中心に、高齢者を支える看護について学びます。そこで、本校のディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、探求する力（成長）、前に踏み出す力（アクション）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	大腿骨頸部骨折事例紹介	講義・GW	看護過程のオリエンテーション 事例紹介
2	高齢者の生活を支える看護：特徴的な疾患・症状	講義	
3	高齢者の生活を支える看護：特徴的な疾患・症状	講義	
4	高齢者の生活を支える看護：特徴的な疾患・症状	講義	
5	事例展開 ※基本情報、検査、薬剤、データベース・アセスメント用紙まで仕上げ、アセスメントの情報共有を行う	講義・GW	看護過程GW
6	認知症・うつ病・せん妄の看護	講義	
7	認知症・うつ病・せん妄の看護	講義	
8	認知症・うつ病・せん妄の看護	講義	
9	認知症・うつ病・せん妄の看護	講義	
10	事例展開 ※関連図、アセスメントの統合、初期計画の設定理由までを仕上げ、情報共有を行う	講義・GW	看護過程GW
11	治療を受ける高齢者の看護：薬物療法・手術療法	講義	
12	治療を受ける高齢者の看護：リハビリテーション	講義	
13	治療を受ける高齢者の看護：診察・検査・入院・退院	講義	
14	事例展開 ※看護計画まで仕上げGで共有、発表を行う	講義・GW	看護過程GW
15		GW（発表会）	

受講上の注意	看護過程の展開においては個人ワークを計画的にすすめ、講義の中でグループワークを行います。課題提出は評価の対象になりますので、期限は守りましょう。 講義に関しては、臨床をイメージしながらより具体的な看護実践につなげられるよう、予習・復習を含め、自己の学習を深めてください。	**参考文献**	系統看護学講座 専門分野Ⅱ　老年看護学 （医学書院）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　老年看護学　①高齢者の健康と障害　②高齢者看護の実践 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）		
評価方法	看護過程（30点）、終講試験（70点）、講義、グループワークの参加状況などで総合的に評価		

科目名	小児看護学方法論Ⅰ	開講時期	2年次前期	講義担当者	小倉医療センター医師 西　誠一
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：小医療センター小児科医師 看護師実務経験者

事前学習内容

子どもの疾患・症状は多く、選別した講義内容でスピード感もあるため、事前にテキストは必ず熟読し把握しておくこと。

科目のねらい

健康障がいをもちながら入院・外来・在宅で療養している子どもと家族に対する看護の方法を身につける。特にこの科目では、子どもに多い疾患・症状を理解する。疾患は、小児科臨床医による診断・治療等の実際を学ぶ。さらに症状は、子どもによくみられる症状のある事例を複数用い、疾患や症状、成長発達や生活背景等に合わせた援助について個人及びグループで考え討論することを通し、子どもと家族への多様で個別的な看護の方法について理解を深める。

授業目標

1．子どもに多い疾患・症状を理解できる。
2．各疾患・症状に合わせた援助を考えることができる。

DPとの関連

小児看護学方法論Ⅰは2年前期に開講され30時間15コマの授業です。臨床医師による講義・演習を通し、子どもに多い疾患・症状を理解して援助を考えます。ディプロマ・ポリシー（DP）の考え抜く力（シンキング）、前に踏み出す力（アクション）、探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	【代謝性疾患】先天性代謝異常症　糖尿病（Ⅰ型）	講義	
2	【免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患】アレルギーの分類と発症機序　気管支喘息	講義	
3	【感染症】ウイルス感染症・細菌性感染症	講義	
4	【染色体異常・新生児】染色体異常と未熟児について	講義	
5	【循環器疾患】ファロー四徴症・動脈管開存症・川崎病・感染性心内膜炎	講義	
6	【循環器疾患】ファロー四徴症・動脈管開存症・川崎病・感染性心内膜炎	講義	
7	【消化器疾患】肥厚性幽門狭窄症・腸重積症・胆道閉鎖症・急性乳幼児下痢症・急性胃腸炎	講義	
8	【神経疾患】けいれん性疾患・神経系の奇形・神経皮膚症候群・心身症・発達障害　など	講義	
9	【悪性新生物】白血病・神経芽腫	講義	
10	【腎・泌尿器・生殖器】ネフローゼ症候群・尿路感染症　など	講義	
11	子どもによくみられる症状と看護（発熱・脱水・けいれん・痛み・発疹・呼吸困難・浮腫・熱傷）	（個人学習） TBL	事前学習：P195-214、資料　客観テスト
12	子どもによくみられる症状と看護（事例検討）	TBL	5人／G
13	子どもによくみられる症状と看護（事例検討）	TBL	
14	子どもによくみられる症状と看護（発表）	RPG	発表・RPGビューイング投票
15	子どもによくみられる症状と看護（発表）	RPG	まとめ

受講上の注意	・子ども特有の疾患・症状について学び、子どもと家族に必要な援助を考える。 ・学習相談は口頭やレスポンスカードで受付、次回の授業内で回答する。	**参考文献**	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論(小児看護学①)第13版 [医学書院] ・小児看護学概論　子どもと家族の寄り添う援助（南江堂）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　小児看護学③　小児の疾患と看護　（メディカ出版）		
評価方法	出席状況・参加への意欲・グループワーク及び発表・筆記試験などで評価します。 【試験配点】 医師（80点）　　教員（ルーブリック20点）		

科目名	小児看護学方法論Ⅱ	開講時期	2年次後期	講義担当者	小倉医療センター看護師 原田美和子
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：小倉医療センター看護師 看護師実務経験者

事前学習内容

小児看護概論、方法論Ⅰ、領域横断科目で身につけた基礎的知識及び看護の方法を想起できるよう復習し臨むこと。

科目のねらい

概論、方法論Ⅰ、領域横断科目等で身につけた基礎的知識及び看護の方法を統合し、学生個々の子ども観を養う。特に基礎的知識をもとに、さまざまな健康レベルや生活背景にある子どもと家族が最善の健康と生活を維持できる看護の方法について個人及びグループで考える。
さらにこの科目では小児看護学実習に向け、子どもの日常生活援助やバイタルサイン測定等をモデル人形や視聴覚教材等を活用して実際の場面を予測しながら学習し、小児看護技術における実践能力を身につける。

授業目標

1．子どもと家族を取り巻く環境及び成長発達を理解し、さまざまな健康レベルにある子どもと家族が最善の健康と生活を維持できる看護の方法を考え表現できる。

DPとの関連

小児看護学方法論Ⅱは2年後期に開講され30時間15コマの授業です。臨床看護師の講義・演習を通し、さまざまな健康レベルにある子どもと家族への看護の方法を考えます。
ディプロマ・ポリシー（DP）の考え抜く力（シンキング）、前に踏み出す力（アクション）、チームで働く力（協働）探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	子どもの日常生活援助・小児看護技術	講義・演習	・子どもと家族のセルフケア能力をいかした援助方法について学ぶ。
2	子どもの日常生活援助・小児看護技術	講義・演習	
3	子どもの日常生活援助・小児看護技術	講義・演習	
4	長期療養が必要な子どもと家族の看護　先天性心疾患	講義・演習	・ワークシートを用い、主体的に各自で知識の習得をした後、グループ学習を行い学びを共有、深めていく。
5	長期療養が必要な子どもと家族の看護　Ⅰ型糖尿病	講義・演習	
6	長期療養が必要な子どもと家族の看護　悪性新生物	講義・演習	
7	急性期にある子どもと家族の看護	講義	・臨床看護師による看護の実際を学ぶ。
8	未熟児看護	講義	
9	子どもに多い感染症	講義	
10	感染症をもつ子どもと家族の看護	講義	
11	災害時の子どもと家族の看護	講義・演習	
12	事例展開　川崎病の子どもと家族の看護	講義・演習	・小児看護の思考過程を学ぶ。
13	事例展開　川崎病の子どもと家族の看護	講義・演習	
14	事例展開　川崎病の子どもと家族の看護	講義・演習	
15	子どもとは③	講義・演習	・小児看護学の講義を統合し子どもと家族の最善の利益を守る看護について自己の考えをまとめる。

受講上の注意	・学習相談は口頭やレスポンスカードで受付、次回の授業内で回答する。	**参考文献**	・小児看護学概論　子どもと家族の寄り添う援助（南江堂） ・小児看護学　第8版（日総研）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ　小児看護学②　小児看護技術　（メディカ出版）		
評価方法	終講試験70点　小児看護技術10点　看護過程10点　レポート10点		

科目名	母性看護学方法論Ⅰ	開講時期	2年次通年	講義担当者	田原ゆう子
		単位数	2		
		時間数	45時間（23回）	実務経験	有：看護師・助産師実務経験者

事前学習内容

この授業では、子どもを産み育てるにあたり、母親としての役割だけではなく、家族で子どもを産み育て親になることへの家族支援や、関係する法規・社会福祉制度について学びます。妊娠・分娩・新生児・産褥期の正常経過、および対象を総合体として捉えるためのアセスメントや看護の実際を学びます。また、母性看護に必要な保健指導や看護技術が習得できるよう演習を行い理解を深めていきましょう。

科目のねらい

この授業では、妊娠・分娩・産褥期と早期新生児の正常経過の基礎的知識およびアセスメント、さらに対象の生活を考慮した保健指導や看護技術について、講義や演習を通して学びます。

授業目標

1. 女性が母親役割を考え、家族を構築する際の看護支援の必要性を理解できる。
2. 妊娠、分娩、産褥期および新生児の正常経過が理解できる。
3. 母性看護に必要な保健指導及び看護技術が習得できる。
4. 母子及び家族に必要な援助を看護過程の展開と合わせて学ぶことができる。

DPとの関連

母性看護学方法論Ⅰは2年次の通年をとおして受講する45時間23回の講義です。母性看護学概論で習得した概念をもとに、親になる過程である妊娠・分娩・産褥期および新生児の正常経過や、対象の生活をふまえた保健指導について学びます。関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、前に踏み出す力(アクション)、探求する力（成長）に関連づけられています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	妊娠・分娩・産褥期および新生児期における看護の対象と基盤となる概念	講義	
2	妊娠初期：正常な妊娠の経過　妊娠期の定義　妊娠成立　妊娠経過と胎児の発育	講義	
3	妊娠中期：妊婦・妊婦の健康状態と胎児の発育　マイナートラブルとその看護	講義	
4	妊娠後期：妊婦・妊婦の健康状態と胎児の発育　マイナートラブルとその看護	講義	
5	正常な分娩の経過と進行　分娩期の定義　分娩の3要素 分娩の経過陣痛、産痛	講義	
6	分娩期の看護：産婦・胎児のアセスメント　産痛緩和	講義	
7	レオポルド触診法　子宮底・腹囲　間欠的胎児心拍数聴取　NST	講義・演習	
8	産褥期の定義　産褥期の身体的特徴　全身の変化　生殖器・乳房の変化　子宮復古	講義	
9	母乳分泌メカニズム　母乳育児への支援	講義	
10	産褥期の心理・社会的変化　バースレビュー　愛着形成支援　家族の再調整褥	講義	
11	新生児の定義　新生児の分類　新生児の機能	講義	
12	新生児の機能　生理的体重減少　生理的黄疸　アプガースコア　新生児マススクリーニング	講義	
13	新生児の抱っこ　バイタルサイン測定　沐浴　おむつ交換	講義・演習	
14			
15	親になることへの看護：愛着形成過程　親役割獲得過程	講義・演習	
16	正期産の分娩の経過を踏まえた看護、出産時および産褥期のケア、新生児の看護について、事例を通して展開する。	講義・演習	
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23	まとめ	講義・まとめ	

受講上の注意	教科書および講義資料を中心に学習するとともに、演習や体験学習にも積極的に取り組みましょう。 広く文献等を活用して妊娠・出産・産褥・育児について、正常に経過するための看護を理解しましょう。	**参考文献**	系統看護学講座 母性看護学① 母性看護学概論 母性看護学② 母性看護学各論
使用するテキスト	ナーシンググラフィカ　母性看護学②母性看護の実践　母性看護学③母性看護技術 （副読本）		
評価方法	試験、参加状況、課題提出状況などで総合的に評価		

科目名	母性看護学方法論Ⅱ	開講時期	2年次後期	講義担当者	小倉医療センター助産師
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：小倉医療センター助産師

事前学習内容

この授業では、妊娠・分娩・産褥期および新生児にみられる異常と起こりうる問題を捉え、健康状態のアセスメントと看護について学びます。また、遺伝・不妊治療などを含めたハイリスク状態にある対象の看護展開と保健指導の必要性を学び、実際のかかわりや援助につなげていきましょう。

科目のねらい

この授業では、妊娠・分娩・産褥期および新生児の正常な経過を理解したうえで、逸脱した状態とその原因、またその後に起こりうる問題を捉え、健康状態のアセスメントと必要な看護について学びます。また専門性の異なる職種との協働についても理解を深めていきます。

授業目標

1. 妊娠・分娩・産褥期および新生児のそれぞれの健康問題を学び、対象の状態に応じた看護を理解できる。
2. 正常な経過から逸脱した妊婦・褥婦の原因及び対応を学び、看護師としての看護実践とその必要性がわかる。
3. ハイリスク状態にある対象と新生児への支援方法を考えることができる。

DPとの関連

母性看護学方法論Ⅱは2年後期に開講する30時間15回の授業です。正常な周産期の看護をふまえ、逸脱した状態とその原因、健康状態のアセスメント、およびその看護について学びます。
ディプロマポリシーである関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、前に踏み出す力（アクション）チームで働く力（協働）、探求する力（成長）に関連づけられています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 妊娠期の健康問題に対する看護1 不育症　流産　早産　感染症　母体保護法	講義	
2	2. 妊娠期の健康問題に対する看護2 妊娠高血圧症候群　妊娠糖尿病	講義	
3	3. 妊娠期の健康問題に対する看護3 常位胎盤早期剥離　前置胎盤	講義	
4	4. 妊娠期の健康問題に対する看護4 出生前診断　倫理的配慮	講義	
5	5. 妊娠期の健康問題に対する看護5 妊娠貧血　妊娠悪阻　高年妊娠・若年妊娠　胎児機能不全	講義	
6	6. 分娩期の健康問題に対する看護1 前期破水　分娩時異常出血　胎児機能不全	講義	
7	7. 分娩期の健康問題に対する看護2 帝王切開術　陣痛異常（微弱陣痛、過強陣痛）	講義	
8	8. 産褥期の健康問題に関する看護1 帝王切開術後の看護	講義・GW	
9	9. 産褥期の健康問題に関する看護2 子宮復古不全　産褥熱	講義	
10	10. 産褥期の健康問題に関する看護3 乳腺炎　尿路感染　排尿障害	講義	
11	11. 産褥期の健康問題に関する看護4 産後精神障害　死産、障害がある新生児を出産した親へのケア	講義	
12	12. 早期新生児の健康問題に対する治療と看護1 先天異常の新生児　早産児	講義	
13	13. 早期新生児の健康問題に対する治療と　看護2 低出生体重児　新生児一過性多呼吸　呼吸窮迫症候群	講義	
14	14. 胎便吸引症候群　高ビリルビン血症	講義	
15	15. 新生児ビタミンK欠乏症　低血糖症　まとめ	講義	
受講上の注意	正常経過を振り返りながら授業を進めていきます。 母性看護学方法論Ⅰの資料・ノートを参考にしてください。	**参考文献**	
使用するテキスト	ナーシンググラフィカ　母性看護学②母性看護の実践　母性看護学③母性看護技術 ナーシンググラフィカ　母性看護学①概論・リプロダクティブヘルス		
評価方法	試験、参加状況、課題提出状況などで総合的に評価		

科目名	精神看護学方法論Ⅰ	開講時期	2年次前期	講義担当者	末永　雅樹
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

精神看護については受け入れにくい内容も考えられるため、疾患や治療、そして看護やチーム医療という内容をイメージし事前課題を準備することで偏見や考え方に対する思いにも変化が得られるように取り組んでください。

科目のねらい

精神看護学におけるコミュニケーションの重要性と医療従事者としてのコミュニケーションの重要性を学ぶ。精神看護学の対象に限らず、さまざまな方への関わりや対象への看護や人間関係の成立、こころの動きも考え、他者だけでなく、自己に対する理解が看護師を目指すには重要になることを学ぶ。「その人らしく生きる」ということは何かを常に意識しながら、ケアすることができるように事例を含めて学習することで相手の立場になって考える気持ちの育成を目指す。

授業目標

1. コミュニケーションとは何か、自己の傾向を捉え、熟考することができる。
2. 患者やその家族、多職種など対象に合わせたコミュニケーションについて学ぶ。
3. 患者－看護師の治療的関係を学び、関係性を成立、発展させる方法を身につける。
4. こころの健康やその人らしく生きる権利、対象・家族・医療者の尊厳について学ぶ。

DPとの関連

この講義は2年前期の受講時期で、専門基礎分野で疾患や検査・治療についての学習を積み、看護学の学習も進み、さらに多くのことをふまえてしっかり考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（協働）への事前学習をして講義時の演習に臨む探究する力（成長）身につくことと関連づけて構成しています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	人間のこころと行動	講義	クライシス・防衛機制　39巻
2	ストレスに対する身体的反応　家族とその支援	講義	心身症　家族との関わり39巻
3	治療的関わりとは	講義	コミュニケーションとは　40巻
4	精神科看護における対象理解　アセスメントの視点	講義・演習	精神科における援助　40巻
5	精神科看護における基本技術　コミュニケーションの重要性	講義・演習	書面説明　パニック障害の事例　40巻
6	看護師に求められるコミュニケーション　関係構築	講義・演習	プロセスレコードとは　40巻
7	日常生活行動への援助　セルフケアとは	講義	セルフケアへの援助
8	日常生活行動への援助　セルフケアとは	講義・演習	オレム理論の活用　40巻
9	日常生活行動への援助　入院環境と治療的アプローチ	講義・演習	リカバリ　40巻
10	嗜癖と依存	講義	嗜癖と依存　39巻
11	生きる力と強さに注目した支援	講義・演習	ストレングス・エンパワメント
12	災害時における心のケア	講義・演習	DPATや国の取り組み
13	統合失調症の患者の看護過程の展開（急性期）	GW・演習	看護過程の展開は各自が期限までに準備して、講義に臨んでいないとGWに思うように参加できないことが考えられます。毎回の学習と準備学習を忘れずに行ってください。
14	統合失調症の患者の看護過程の展開（慢性期）	GW・演習	
15	看護過程の展開・まとめ	講義・演習	
受講上の注意	講義内容によっては、事例を含めるため精神看護学方法論Ⅱで習う疾患や治療、使用される薬剤など詳細な内容の理解不足は問いませんが、事前の学習が準備できていないと十分な理解につながらないことがあります。	**参考文献**	精神看護学Ⅰ精神保健・多職種のつながり　精神看護学Ⅱ臨床で活かすケア（南江堂） 精神看護学①精神看護の基礎 精神看護学②精神看護の展開（医学書院）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 精神看護学②精神障害と看護の実践		
評価方法	事前課題学習、グループワーク、演習参加状況、確認テストなどで総合的に評価		

科目名	精神看護学方法論Ⅱ	開講時期	2年次後期	講義担当者	小倉医療センター精神科医師 末永　雅樹
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：医師・看護師実務経験者

事前学習内容

精神看護学方法論Ⅰで学習した看護や日常生活支援と治療や検査などが結びつけられるように、事前学習に限らず、毎回の講義内容の復習を重ねることを重視します。

科目のねらい

精神障害の診断と分類、治療・検査・処置などを医師から学び、対象への医学的理解を深める。精神障害者への入院中の治療的関わり、受けとめや支援、そして自立する方法の発展、地域で生活する方法や保健福祉サービスとの関連づけをして学ぶことができるような看護を考える。「生きにくさ」や「偏見」といったスティグマの実際を受けとめ、精神看護学として対象、家族への影響、治療に伴う検査やケア、人対人として関わり方を学ぶことができる。

授業目標

1. 精神症状の現れかたの特徴、疾病の分類、治療・検査・処置について学ぶ。
2. 精神疾患に関わる医師の関わりと多職種を交えた精神医療を考えることができる。
3. 精神疾患や精神症状にともなう看護を学び、対象に応じた基本的技術を身につけることができる。
4. 精神看護における具体的支援、対象に応じた看護計画を合わせて学ぶことができる。

DPとの関連

この講義は2年次後期の受講時期で、精神看護学方法論Ⅰで学習したことを応用し、看護専門職を目指し、3年次の実習へと展開するために医師からの疾患を学び、関係を築く力（倫理）、対象に合わせたケアができる考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（協働）と結びつけて構成しています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	精神疾患総論　医学的検査　精神科での治療	講義	精神科医師からの講義はテキストと配布資料での講義となるので、毎回の講義で効果的に受講できる資料管理とポイントの説明を記入するなど各自が工夫をしてください。
2	統合失調症の検査と治療	講義	
3	抑うつ障害と双極性障害の検査と治療	講義	
4	不安障害・強迫性障害の検査と治療	講義	
5	ストレス関連障害・解離性障害の検査と治療	講義	
6	心身症、身体症状および関連する疾患の検査と治療	講義	
7	物質関連障害の検査と治療	講義	
8	摂食障害の検査と治療	講義	
9	パーソナリティ障害の検査と治療	講義	
10	神経障害　認知症の検査と治療	講義	
11	治療の場としての精神科病棟　治療的環境	講義	行動制限　精神保健指定医　40巻
12	「地域で暮らす」を支える　精神科リハビリテーション	講義	SSTや作業療法　40巻
13	地域保健活動における看護師の役割　デイケア	講義・演習	精神障害とともに生きるということ
14	地域保健活動における看護師の役割　就労支援		
15	地域生活への連携　　地域生活を支えるサービス　まとめ	講義・演習	地域・社会での受け入れ

受講上の注意	講義内容は精神科医師による専門的な知識の教授と精神看護学方法論Ⅰで学習した看護ケアの方法を用いて、地域で生活するとはということを考えていきます。直接精神障害のある方と関わる経験は少ないことを考え、GWでの意見交換も重要になります。	**参考文献**	精神看護学Ⅰ精神保健・多職種のつながり　精神看護学Ⅱ臨床で活かすケア（南江堂） 精神看護学①精神看護の基礎 精神看護学②精神看護の展開（医学書院）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 精神看護学②精神障害と看護の実践		
評価方法	課題学習、参加状況、試験（確認を含む）、看護過程の展開　総合的に評価		

科目名	健康診断と保健指導	開講時期	2年次前期	講義担当者	原田美和子・川平奈智子 末永　雅樹・幸田　鳴美 他非常勤講師
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

使用テキスト及び配布資料は事前に熟読し臨むことが望ましい。

科目のねらい	授業目標
個人・集団の健康増進や疾病予防のための行動変容を促す理論やモデルを活用し、保健指導の企画・実施・評価の一連のプロセスを修得する。また多様な医療、保健、福祉の場やさまざまなライフステージにおける健康教育のあり方及び健康診断時に確認される観察内容について学ぶ。	1. さまざまなライフステージにある個人・集団などの対象に対して行われる保健指導の視点や企画・実施・評価の一連のプロセスを修得することができる。 2. 健康診断が行われる対象や場を理解し、それぞれの対象に合わせた健康診断時の観察内容の根拠と方法が理解できる。

DPとの関連	健康診断と保健指導は2年前期に30時間15コマで開講されます。各領域（成人・小児・母性・精神看護学）における保健指導の一連のプロセスや健康診断の観察内容について学びます。 ディプロマ・ポリシー（DP）の考え抜く力（シンキング）、前に踏み出す力（アクション）、チームで働く力（協働）探究する力（成長）をに関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	働く人の健康課題と管理 1)産業保健　医療費助成制度　対象理解と援助方法 健康診断の意義と目的	講義	健康教育の場面を設定し、対象に合わせた支援スキルを修得する。
2	保健指導の方法　　1)集団指導の基礎理論	講義 グループワーク	
3	保健指導の基礎理論 1)自己効力理論　アドヒアランスや主体性の尊重　セルフマネジメント 2)変化のステージ　疾病認識と自己のモニタリング	講義	事例を通して疾患とともに生きる人のセルフマネジメント支援についてグループで考える。
4 5 6 7	女性のライフステージにおける健康診断 1)思春期から妊娠準備の保健指導 2)妊娠・出産・育児の健康診断と保健指導 3)更年期障害、加齢変化の保健指導	講義・演習 グループワーク	女性各期の健康問題や妊娠・出産・育児にかかわる健康問題に対する指導内容の理解ができるように教授する。
8 9	子どもと家族の健康増進のための支援	講義 グループワーク	
10 11	地域における子どもと家族への健康支援①②	講義 グループワーク	地域や病院で連携する多職種とともに子どもの健康をどう守り支援していくかをグループで考える。
12	病気が子どもと家族に及ぼす影響	講義	
13	入院における子どもと家族への健康支援	講義	
14	外来における子どもと家族への健康支援	講義	
15	ストレスチェック制度と健康支援	講義	メンタルヘルス対策としての事前チェックや啓蒙活動学ぶ。
受講上の注意	各領域（成人・小児・母性・精神看護学）における健康診断と保健指導について学びます。継続して一連の講義を受けることで各領域の特徴や方法が理解できます。	**参考文献**	

使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　成人看護学⑤　セルフケアマネジメント 配布資料と事前学習課題
評価方法	試験、参加状況、課題レポートなどで総合的に評価 原田(10)30点・幸田(8)25点・川平(4)15点・末永(2)10点・中野 (6)20点

科目名	専門職連携教育	開講時期	2年次前期	講義担当者	野村美由紀・原田美和子 他非常勤講師
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有

事前学習内容

多職種にはどのような職種があり、専門性をもっているか事前にテキストを熟読し授業に臨んで下さい

科目のねらい

患者は疾患や障害によりさまざまな苦悩や生活上の不便さを抱えながら日常生活を送っており、その多くは病院や自宅・介護施設などを往来している。どこにいても必要なケアが切れ間なく、受けられるような継続性が重要となる。その中で、病院内・在宅という「暮らしの場」でも、異なる専門職が対象の情報や関わり方の方向性、ゴールを共有しながら協働していくという、多職種連携の関係作りを意図的に行っていくことが重要であり、ここでは他の専門職の専門性を理解し多職種との連携方法を学ぶ。

授業目標

1. 各専門職の専門性の理解ができる。
2. 各専門職のアセスメントの違いが理解でき、看護の視点と合わせて考えることができる。
3. 多職種連携の必要性と連携方法について理解できる。

DPとの関連

専門職連携教育は2年前期に開講され、30時間15コマの授業です。どこにいても必要なケアが切れ間なく受けられるように継続看護のための多職種連携の方法を通し、ディプロマ・ポリシー(DP)の関係を築く力(倫理)、前に踏み出す力(アクション)、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	リハビリテーションとは 1）歴史・概念・定義・理念	講義・演習	・リハビリ専門職を知り、患者さんにより良い医療を提供するためリハビリ専門職と看護師の連携について考える。 ・あらゆる発達段階の人のリハビリテーションに着目し専門職連携について事例を通して考える。
2	リハビリテーション専門職とその役割 1）障害と心理、職業倫理	GW	
3	身体障害者福祉法に基づく社会資源の活用と居住環境	講義	
4	生活機能障害と日常生活動作 1）補助具と自助具	講義・演習	
5	機能障害と分類　ICIDHとICF	講義	
6	リハビリテーションに関連するリスク管理	講義	
7	高齢者に起こりやすい疾患のリハビリテーション 1）廃用症候群の予防	講義・演習	・高齢者におこりやすいリ状態に実施するリハビリテーションの必要性と意義を理解する。
8	在宅看護におけるリハビリテーション 1） 訪問・通所リハビリテーション（地域・在宅）	講義	
9	リハビリテーションにおける看護の役割 リハビリテーション看護　（野村）	講義	
10	地域で生活する子どもと家族への看護	講義	・保健利用福祉で支える妊娠期からの切れ目ない支援について学ぶ。
11	精神障害者の地域生活へのかかわり 1）地域連携	講義	
12	地域で生活する精神障害者へのアプローチ 1）リエゾン看護師　　2）看護師のメンタルヘルス	講義・GW	・生活の場で行われるリハビリテーションの実際と継続について連携・協働の必要性を事例から理解する。 ・地域包括ケアシステムの概要の既習内容を確認しながらまとめる
13	「地域包括ケアシステム」① 社会参加を促す関わり 「地域包括ケアシステム」② 地域ケア会議とは	講義・GW	
14			
15	まとめ	講義	

受講上の注意	科目のねらいを理解し、受講して下さい	参考文献	各担当が指定するテキスト 配布資料
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　在宅看護論①　地域療養を支えるケア　他		
評価方法	参加状況、課題レポート、試験などで総合的に評価 野村(4)20点・原田(2)20点・非常勤講師(24)60点		

科目名	周術期と看護	開講時期	2年次前期	講義担当者	西　誠一・髙瀬　知子 三滝佳代子他
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

各ライフステージでの特徴や手術侵襲による生体の回復過程、主な術後合併症について事前学習をして講義に臨んでください

科目のねらい

周術期は術前・中・後の全期間を含み、各ライフステージでの手術の適切な時期・リスク、手術後の経過は異なる。また、手術を受ける患者は手術の種類・目的・術式・緊急か計画的かによって手術に臨む姿勢も変化する。患者・家族は治療に期待する一方で、手術による機能低下や障害、予後への不安をかかえている。看護師は手術侵襲による生体の回復過程を理解し、科学的根拠に基づき安全・安楽が確保される援助をする必要がある。在院日数短縮化のなかで、術前から退院後の患者の生活の質の維持・向上のためにも外来や地域の病院、家庭や生活とのつながりが重要となる周術期における看護を学ぶ。

授業目標

1．ライフステージによる手術の時期や特徴が理解できる。
2．周術期の手術侵襲による生体の回復過程がわかる。
3．術前から手術後、その後の経過を通して看護師の関わりと対象の反応がわかる。

DPとの関連

周術期と看護は2年前期に開講され、30時間15コマの授業です。各ライフステージの手術侵襲による生体の回復過程と、術前・術後・退院後における看護を通し、ディプロマ・ポリシー(DP)の関係を築く力(倫理)、前に踏み出す力(アクション)、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	周術期とは 1）手術の意思決定　2）インフォームドコンセント 3）術前検査、オリエンテーション、術後の合併症リスク評価、術前訓練	講義	・手術を受ける患者の気持ちを考えることができるように教授する。
2	手術室での看護 1）術前訪問、入室時の看護、手術室の構造と環境、開腹・開胸・開頭・内視鏡下手術による影響とその援助 2）安全管理、手術体位、手術終了から回復室までの看護	講義	・手術の特徴や麻酔が身体に与える影響を知り、手術室看護について学ばせる。
3	麻酔と看護1・2 1）全身麻酔と局所麻酔 2）麻酔薬のリスクのアセスメント 全身麻酔導入時の看護、全身麻酔による生体反応、気管内挿管、術中モニタリング、麻酔覚醒時のケア 3）局所麻酔による生体反応 局所麻酔導入時の看護、術中モニタリング、麻酔覚醒時のケア 4）手術中の家族への援助、術後訪問	講義	・身体の生体反応が著明に現れる経過の中で行われるフィジカルアセスメントや基礎看護学で習得した知識とともに結びつけて考えられるように教授する。
4		講義	
5	術当日の看護 1）帰室後の準備、回復質での管理、生体の損傷に伴う反応、疼痛管理、創傷管理・ドレーン管理 集中治療室における術後の看護 1）入室適応、治療環境、看護師の役割と看護 呼吸・循環・代謝・栄養管理	講義・演習	・手術後の病室の環境など安全や感染予防、対象に合わせた関わりができる配慮も教授する。
6			
7	術後のケア1 1）術後合併症予防、術後出血、下肢静脈血栓 、肺塞栓症、呼吸器合併症と予防 術後のケア2 1）術後合併症予防、術後感染、縫合不全、多臓器不全、早期離床による身体への影響 術後のケア3 1）退院に向けての支援、ボディイメージ受容への支援、退院調整、機能訓練、セルフケア能力の獲得	講義・演習	・手術が無事終了すると治療完結ではなく、さまざまな合併症のリスクがあること等多くの視点の中からアセスメントできるように教授する。 ・精神科治療である特殊な内容ではあるが、実際に施術される際のケアを教授し、イメージ化する。 ・術後の高齢者に起こりやすい、せん妄や廃用症候群を術前からケアできるように教授していく。 ・女性特有のボディイメージの変化など受容過程なども含めて教授する。 ・ケア用の補正下着などのことも考えられるよう情報提供。 ・子どもの日帰り手術の看護について学ぶ。子どもと保護者の不安も捉える。 ・術後の生活を考えた支援方法を学ぶ
8			
9	修正型電気けいれん療法の治療を受ける患者の看護	講義	
10	高齢者の手術前後の看護 1）せん妄、廃用性症候群予防	講義	
11	乳がん手術や治療を受ける人の看護	講義	
12	女性生殖器手術を受ける人の看護	講義	
13	帝王切開術を受ける妊婦の術前術後	講義	
14	周術期の子どもと家族の看護	講義・演習	
15	退院支援、セルフケア支援 1）術後の機能障害や生活制限へのケア	講義	
受講上の注意	科目のねらいを理解し、受講して下さい	**参考文献**	各領域担当が指定するテキストや資料

使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　成人看護学④　周術期看護　他 ナーシング・グラフィカ　精神看護学②　精神障害と看護の実践　　配布資料
評価方法	試験、参加状況、課題レポートなどで総合的に評価　　各看護学での確認テストも含む 西(20)60点・中野(6)20点・髙瀬：せん妄(2)10点・三滝：m-ECT(2)10点

科目名	薬物と看護	開講時期	2年次前期	講義担当者	末永　雅樹・原田美和子 中野真梨子・川平奈智子 他
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

領域横断科目のため、示された課題を意識することで連合させた知識となるように、1年次に習得した「薬理学」の知識とも合わせて、さまざまなテキストや視点からの知識を応用させるように、事前学習を行ってください。

科目のねらい

薬理学で学んだ薬の知識をふまえ、各発達の視点で薬物療法を受けている患者に適切な看護が実践できる能力を養う。特に健康問題を解決するために薬物療法を受けている患者の（各発達の視点で）薬剤服薬による効果と副作用、薬物の服用方法と管理について理解する。さらにこの科目では薬物療法により変化する患者の健康状態や治療ごとの具体的な支援方法を学ぶことを目的とする。

授業目標

1．発達段階、健康レベルを把握し服薬における看護の基礎的な知識・技術を学ぶことができる。
2．各発達の薬物療法における特徴を理解し、看護の役割について考えることができる。

DPとの関連	DPの考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（協働）といった点で看護師だけの視点では気づけないことや医師からの指示を薬剤師や多職種との関係を発展させることで、患者により安全で安心できる医療や看護が提供できるよう科学的根拠に基づき、法に基づき考えることができるように関連させて構成しています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	薬物の基礎知識　医薬品と医療機器の取り扱いをめぐる法と看護	講義	・解剖学、生理学、薬理学で学習した基礎知識を復習して講義に臨む。 ・薬の管理や指導方法については基礎看護学での既習知識であるため、講義の際に活用する。 薬については誰もが使用した経験のあるものと考えられるが、使用方法や服用方法を誤ると命の危険に及ぶこと等を理解して講義の際には行動できるように習得する。
2	成人期における薬物療法と看護　セルフマネジメント	講義	
3	成人期における薬物療法と看護　救急医療と医薬品	講義	
4	成人期における薬物療法と看護　がん患者におこる有害反応と看護	講義	
5	成人期における薬物療法と看護　薬物療法時の具体的看護	講義	
6	母性における薬物療法と看護　妊婦の薬物使用の影響1	講義	
7	母性における薬物療法と看護　妊婦の薬物使用の影響2	講義	
8	母性における薬物療法と看護　女性のライフサイクルと薬物療法	講義	
9	小児における薬物療法と看護　子どもの薬物動態とその特徴	講義	
10	小児における薬物療法と看護　子どもと家族への服薬支援	講義・演習	
11	精神疾患に関する薬物管理と看護　（麻薬・向精神薬など）	講義	
12	精神疾患患者の看護　（拒薬時のかかわり・持効性注射薬など）	講義・演習	
13	精神疾患患者の看護　特徴的な有害反応の観察と看護	講義	
14	精神疾患の薬物管理と看護　（入院時・通院時・服薬指導・自己管理など）	講義・演習	
15	在宅生活における薬物療法の影響と家族支援	講義・演習	
受講上の注意	ライフサイクル各期に合わせた講義内容や特徴となるため、1回1回の講義や演習内容が臨地実習時のそのままの形や考え方の視点となるため、受け身にならずに積極的に参加してください。	**参考文献**	講義配布資料の中で紹介

使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　疾病の成り立ち②　臨床薬理学 他 各担当者が指定するテキストや配布資料
評価方法	試験、参加状況、課題レポートなどで総合的に評価 末永(10)：1回目総論+精神看護学30点・原田(4)15点・中野(8)25点・幸田(6)20点・川平(2)10点

科目名	医療安全	開講時期	2年次後期	講義担当者	小倉医療センターリスクマネージャー 中野真梨子
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：小倉医療センター医療安全管理係長・看護師実務経験者

事前学習内容

復習を必ず行い、考え、自分の言葉で説明できること、実習での気づきや安全管理に関心を持ち学習してください。

科目のねらい

急激な変化をとげ、複雑さが増す医療現場の中で、質の高い医療・看護を守る医療職の一員として基本的な倫理観はもとより、医療安全に関する基礎的な知識、技術から実践につなげる能力を積極的に習得させる。また事故発生のメカニズムやリスクマネジメントの重要性を学び、組織の一員であることを自覚するとともに医療事故に対する対策や自己で回避する方法や環境も考え、医療や看護の安全の重要性に関する基礎的知識を理解する。

授業目標

1. 医療事故の重要性が理解できる。
2. 医療安全の取り組みや事故発生のメカニズムから看護業務に関連する発生要因や対策がわかる。
3. 臨地実習における事故予防と発生時の対応の理解ができ、学生としての行動がとれる。

DPとの関連

医療や看護の安全の重要性に関する基礎知識を理解し、演習やGWを行うことで、臨床での看護実践に活かせられるよう、考え抜く力や探求する力と関連付けた。

また、医療安全の組織としての取り組みや、リスクマネジメントの重要性を学ぶことで、医療職の一員である事が理解できるようチームで働く力と関連付ける。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	医療安全の意味と重要性 看護職の法的規則と医療安全	講義	・医療安全努力は看護師の責務であることを強調する ・ヒューマンエラーに基づいた考え方を理解させる ・質の高い医療を提供するために必要な安全対策の基本を理解させる ・看護事故の1/3は与薬（注射）事故であることや薬理学での学びを想起させ、予防策を意識的に考えさせる ・実践に即した演習は看護学生が起こしやすい事故について行動とともに考えさせる ・安全な看護を提供するための判断力、実践力を養うことができるように事例演習を行う ・視覚教材を効果的に用い、①事故の発生要因②状況③防止策についてグループで検討し、自分たちが行動できるような意見交換を行う ・学生自身の傾向を認識し、予防策、改善策を考えさせる ・安全管理について組織・個人としての事故防止についてのあり方について考えさせる
2 3	国の医療安全への取り組み 看護職能団体の取り組み 医療事故の定義と分類 医療安全管理者と役割 医療事故への対応 医療事故の被害者・家族の思いに寄り添ったケア 医療事故の報告制度と医療の質の評価	講義	
4 5	事故発生のメカニズム 事故の分析と対策	講義 演習	
6	リスクマネジメントとは チームで取り組む安全文化 エビデンスに基づいた協働	講義	
7 8 9 10	看護業務と事故発生要因 誤薬　与薬事故　誤認　針刺し 転倒転落　ご縁　異物残留　皮膚障害 医療機器やチューブ類のトラブル 検査・処置時のトラブル 情報管理上のトラブル（カルテ等） ◎上記内容の分析と対策	講義 GW 演習	
11 12 13	看護職の業務上の危険とは 感染の危険を伴う病原体の曝露 感染に対する標準予防策 医療機器・医療品などのリスク 労働形態・作業・第三者による暴力	講義 GW	
14	在宅看護における医療事故とその対応 リスク管理の現状と課題 施設等での安全対策	講義	
15	臨地実習における事故の法的責任と補償 実習中の事故予防と発生時の対応 習得すべき看護技術のリスクと安全	講義	

受講上の注意	※臨床での事例を紹介することがあるので、守秘義務を必ず守ること。	**参考文献**	系統看護学講座　統合分野　医療安全（医学書院）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　看護の統合と実践②　医療安全		
評価方法	試験、参加状況、課題レポートなどで総合的に評価 【試験配点】 中野真梨子（50点）　小倉医療センターリスクマネージャー（50点）		